

県民意見交換会における意見について

10月20日「県民意見交換会」当日発言 感想・意見・質問等 概要(鈴鹿会場)

資料 3

番号	感想・意見・質問等
【教育的な視点】	
1	(新博物館整備にあたり)これから学芸員の選考をされる場合には、専門性の視点だけでなく、若い人、子どもの教育の視点から指導者として素晴らしい方をお願いしたい。
2	学芸員は、開かれた博物館としてふさわしい利用者へのサービス精神旺盛な人を育てていただきたい。
3	学芸員を育てる話があったが、館長がコーディネイト役となる必要があり、新博物館に際しても、博物館候補を早く決めるべき。
4	最近、ヘビ、クモなどを害のある生き物として嫌がられることがあるが、きちんと自然と人との共存ということを教育として教えていただきたい。
【総合の意味、自然系か歴史・文化系か】	
5	審議会委員に自然系の委員がはいっていない理由
6	総合とあるが、自然と歴史・文化の割合をどのように考えているのか。
7	自然は、あるまますを研究する、文化は、人がつくってきたもの、であるので、歩み寄らない部分がある。
8	総合というなら、斎宮歴史博物館、各地の資料館などの博物館には、人文系のものが多いため、これらをあわせて、総合とする考え方で、足りないものだけを作ればいい。だから、民間の日本カモシカセンターも閉園になったこともあり、自然史が足りないので、自然史の博物館を作ればいい。
9	現博物館の収蔵品が自然系以外のものがあるというのであれば、斎宮の横にでも収蔵庫をつくって、展示すればよい。
10	現在県内の博物館のなかで、自然系のはほとんどないなかで、自然系のもを作るべき。
11	自然系博物館を求める請願というものがあつたが、このことに何も触れていないのはどういことか。
12	地域にさまざまな博物館などがあるのであるから、市町へ支援してもらったほうがよい。
13	総合博物館が、どっちつかずで、独自性のないものにならないようにしてほしい。
14	自然と歴史・文化のバランスのことについて。 飯南町に森という場所があり、戦時中に韓国朝鮮人によって、鉱石を掘っていた。このことをみていくと、少しの鉱石をとるのに、なんと劣悪な環境でやっていたのかということが、戦争時の歴史的状況や岩石鉱物のこと、その時代の地域の人の暮らしということをあわせて考えると見えてくる。このことから、「総合」ということには深い意味がある。ただ、集めて「総合」というのでは、だめ。 教員が、三重県中フィールドワークして集めた岩石が今どこにも引き取ってもらえなくて、津高校に保管されているが、このままいくと散逸してしまう。
【公文書館の整備について】	
15	古文書、公文書館機能を含めるとあるが、博物館と公文書館は性格が異なる。特に、公文書館は、閲覧が自由なのに対し、博物館では、閲覧が制限されるので、公文書館は独立して整備していただきたい。
【文化振興方針について】	
16	博物館、図書館、美術館、生涯学習センターなどの連携による充実強化、一体的な機能発揮といったことが言われているが、これは大変難しいこと。 これはいままでも言ってきたことであり、いままさらっているのがおかしい、それだけ難しいということもいえる。今回は、その原因にしっかりメスを入れていただきたい。
17	三重の文化振興方針(仮称)(骨子案)の中身は、よいが、いつもこのようにいいことを書いては、実現しないままとなっている。ぜひ、文化を支える財源、経済的な背景の担保について記していただきたい。
18	PDCAサイクルとして、計画に基づく進行管理を図っていただきたい。
【博物館について(その他)】	
19	マトリックス(たて糸よこ糸)は、機能のことであり、どういう人を集めてくるかによって違ってくる。ぜひ、動かす人のことを考えて、アウトリーチして他者と手をつないでいく学芸員などの人が必要。機能させる人の手配に注力してほしい。
20	コンテンツ産業に関して、三重で取組がされていないようなので、やってもらいたい。管轄は？
21	博物館の収蔵品に関する基礎的な調査、整理が必要である。
22	基本テーマをもつことが、必要である。
23	全体的な来年度以降のスケジュールを明確にしてほしい。
24	ハコモノ行政が批判されるなかであっても、20数万点の収蔵庫が必要であり、借金しても作るべきである。
25	建築に関して、金沢の21世紀美術館は、まわりにアサガオが一面に植えてあり見栄えがいい。(三重の場合も)コンクリート打ちっぱなしでもいいくらい、最低限必要なものを建てればよいと思う。
26	資料3「博物館に関する基本的な考え方」の内容は素晴らしいが、全体として実現できるのか。

10月21日「県民意見交換会」当日発言 感想・意見・質問等 概要(松阪会場)

番号	感想・意見・質問等
【新博物館の性格や役割】	
1	四日市、桑名、松阪といった各市町の博物館があり、県の博物館はネットワークを充実させる役割がある。
2	もしつくとすれば、三重の特性を活かした他の県にないユニークな博物館を作るべき。他の博物館と連携して遠くに住んでいる人も利用しやすい博物館とすべきである。
3	一括して文化振興といっているが、内容の分野をどのように考えているのか。
4	文学については、どこで考えていくのか。博物館をつくるといっても一括して大きなものを建てるのか。分野別につかっていくのか、説明ではわからない。
5	例えば資料といっても蓄積されたものもあるが、人がつくった資料もある。三重の作家について資料もあり、収蔵に悩んでいる。地域の多様性もあり、そうした分野をどう考えるか。
6	すべてを入れるのは財政的にも規模的にも無理と言うことはわかる。しかし、将来的に展望を持つのか、これだけしかできないので、これだけですと言われるのかによって違う。例えば、文学が小さなコーナーであって、充実して、利用度が高くなれば、将来、独立してどこかに建てるということもできると思う。10年、15年先でできるという展望がもてるものとしてもらいたい。
7	県民には総合文化センターや生涯学習センターと重なるような部分については理解されないと思うので、そこにはない特色をもったものにしてもらいたい。
8	研究活動を発表したいという場、またそれを受けたい、知りたいという県民の方々の「県民の教室」としたら、開けた博物館となるのではないか。
9	移動展示のように、ここへいらっしやいではなく、ここに来ましたのでご覧くださいというのも大切である。
10	総合の中身が分からない。林業、水産、農業のコーナー、医療、薬などの分野もあるのでこれらをどう精選していくか。ここへくれば三重の全てがわかる、全国的なネットワークもある、ここへ行けば調べられるという壮大な構想にしてもらいたい。
11	県庁内の各分野の資料展示について、意見聴取もしてもらいたい。
12	一度つくれば、50年は使う。他にないいいものを作ってもらいたい。
13	県立博物館のサポートスタッフとして移動展示の展示案内のお手伝いをした時、ミエゾウの展示をみて子ども達の目つきが違った。今の高校生も話しかけると興味を持ってくれる。こうした子どもの教育や、子どもを育てるために歴史文化を後世に残すことに博物館の機能、役割がある。
14	コラボレーションについても整理してかかれているので、今までの点と線から面的な博物館になると期待している。
【資料収集について】	
15	鉱物収集を例にとると、収集者が亡くなって収集した資料が散逸してしまう恐れがある。地域の学校や郷土に埋もれている資料を収集、データベース化していただける博物館としてもらいたい。
16	収集していた資料についても、その人が亡くなると散逸する。いかに保持・保全するかというシステムを入れてもらいたい。
17	最近の若い人は自分の地域の字の名前も知らない。「大字総図」の縮小版を県で作って博物館で備えてもらいたい。里山保全にも役立つと思う。
18	区有文書について、散逸しないよう目録だけでも県(博物館)でつくってもらいたい。
【現博物館について】	
19	全く新しい博物館となるのか、リニューアルか。現博物館は昭和の遺産であるので、現博物館の外観だけでも残すように工夫してもらえないか。
【博物館整備の予算に対する質問】	
20	新しい場所につくられるとのことだが、予算がどれぐらいかかるのか。

「県民意見交換会に参加して」 感想・意見・質問等

(別途ペーパー等により提出された分)

番号	感想・意見・質問等
【総合博物館に関して】	
1	総合の意味は難しいですが、逆に全方向に対応できると理解しています。
2	多様な意見が出ていましたが、全体的方向はよいので、早急に進めていただきたい。
3	平成14年3月に県議会で自然史系博物館として議決されているのが、どうして総合博物館に変更されたのか理解できない。自然史系中心の博物館に戻すべきである。
4	完成時には、学芸員も自然系人文系は同じ比率にすべきである。当然ながら資料室の面積、予算も平等に考え、県民が研究できる機関であってほしいです。
5	自然を中心にした博物館を(つくってもらいたい)。
6	三重県は豊かな自然環境に恵まれ、極めて多様性に富んだ生物が生息しています。また、多くの先輩研究者による様々な生物を対象とした膨大な研究成果・採集標本が現県立博物館に収蔵されています。県立博物館が今のような状態のままでは、これらの貴重な研究データがどんどん県外の大きな自然史系博物館へ流出してしまっている現状を変えることはできません。新しく計画されている「みえの博物館」における自然史部門の割合が縮小されてしまうと、ますますその傾向に拍車がかかることになるでしょう。三重の自然で育ち、三重の自然を愛するものとして、これほど悲しいことはありません。どうか、自然史部門の施設の充実をお願いいたします。
7	当日の意見交換会の場では、新しい「みえの博物館」に自然史部門の施設充実を望む意見が大半を占めていたと思います。私も、これらの意見に賛同します。
8	さまざまな貴重な意見が聞くことが出来、大変参考になりました。特に新博物館につきましては、私としては、幅広い分野を取り入れ、専門的に深く追求していくものについては、各地の施設に委ね、窓口を広く受け入れられる博物館にしてもらいたいと考えます。
9	誠に残念ではありますが、他県の博物館(建物、展示物など)に比べ、見劣りがすることは否定できないと思います。観光的目的をも含め他県と比肩出来るハード・ソフトをもった博物館にしてほしい。
【審議会委員に関して】	
10	文化審議会の選考基準について ・自然史系のメンバーがいなし、これでは新博物館構想に偏った意見になる。どういう基準で選考したのか知りたい。総合でなら自然史系の人材も入れるべきである。 ・新博物館建設準備委員と審議会のメンバーとは同じなのかどうか。博物館といふかなり高いレベルの専門性が要求されるが、このメンバーで大丈夫か。もし、建設準備委員会をさらに設置するのなら全国レベルの専門家を選考してほしい。
11	「自然系博物館の整備を求める請願書」が県議会で採択されている。自然系と人文系の2本立てで行うのであれば、今後出来るであろう検討委員会(新博物館のあり方部会)には自然系の専門の方を入れるべきである。
12	現在、自然史系博物館の役割が増大してきているのに、今の審議会のメンバーの少なくとも半数は自然系の委員とすべきである。ぜひ、自然系を重視した自然史博物館をつくってください。
13	審議するとき、委員だけではなく、他の博物館関係者(県外も含めて)にも入ってもらい、アドバイスをもらってはどうか。
14	博物館は観る人が色々な層がある。感動を与えるためには、高年齢審議会委員だけではなく、若い人を含めて企画してほしい。
15	委員のメンバーをみると肩書きのある方、年齢の高い方がほとんどである。将来のことを考えて、若い年齢層からの委員が必要だし、彼らの意見を聞く機会を設けたらよい。
【新博物館の建設(展示等)等に関して】	
16	(新博物館では)調査研究を進めてほしい。
17	現在の博物館では、地域(三重県全域、三重県内の地域)の歴史がよく分からないので、子どもから大人まで三重県の今までたどってきた歴史が明確に分かるような展示・体験を望みます。
18	三重県のことを知ろうと思い、最初に行ったのが県立博物館でした。県立博物館に行けば三重県のいろんなものが勉強できると思ったからです。しかし、行って見た結果は期待はずれのものでした。「総合」とはいうものの、実際は自然史博に考古資料(古墳の移築)を足したような博物館としか見えなかったのです。「三重県立博物館」という名前をつけるなら、三重県を代表する博物館でなければならないと思います。三重県はまだまだ知名度の低い県です。全国に三重県を発信できるような、ここに行けば三重県が分かる!というくらいの博物館を作っていただけるよう期待をしております。

19	新博物館を建設するならば、資金集めの方法として、全県民に対して、設計、場所が決まった段階で寄附を集めて建設費の一部にしてほしい。県庁の玄関ロビーに模型をつくって宣伝して、つくる／つくらないかの判断を県民に聞くのをひとつの方法であると思う。
20	「立派な施設を作りましたから来てください」ではなく、移動展示等、工夫をして「こんなすばらしいことに出会えるのなら、本物の博物館に行ってみよう」というものになればいいなと思いました。
21	様々な企画の情報をどうやって「行ってみたいな、行ってみよう」と思わせるような伝え方ができるか、運営面での課題だと思います。いくら良い物でも知らなければ足を運んでもらうということはできませんから。
22	最後の速水委員の発言(博物館の展示については、現世の方が求めるものであり、後世に人はどれだけ残してくれたかということを求める。その意味から収集・収蔵をしっかりとすることが大事である)は、外の方野でも共通する考え方の基本であるにもかかわらず、見落としがちな視点だと思います。このスタンスを大切にして検討していただければ、よりすばらしい博物館が実現するのではないかと期待を感じました。
23	資料1, 2, 3には立派なことが書かれており、このとおりであればすばらしい博物館になるものと期待していますが、2度、3度と足を運ばせる展示を望みますし、開館した時は混雑するが、そのうち足が遠のくのでは。
24	底辺を広げるまちかど博物館から市町にあるほこりにかぶった資料館等までも指導し、核となった博物館を希望します。
25	身近な情報を発信してほしい。国立博物館のようにイベントを打ってほしい。特に県内の歴史の資料を集め、県民の身近な歴史を理解できる企画を望みたい。
26	貴重な機会に参加でき、関係各位の方々に感謝しております。結果的には新博物館計画についての話に終始しましたが、参加者の期待と不安が大いに感じられました。しかし、論点が漠然としすぎており、議論が深まらないのがとても残念でした。そもそも、現在の博物館の老朽化や耐震強度不足の緊急性に対する状況認識から議論をスタートしないと、理想を重視する意見と、現実を重視する意見が対立し、(のんびりしたヒトとせっかちなヒトという捉え方をされてしまう)本来なされるべき議論が深まらないのではないかと思います。そしてそのままプロジェクトが進行してしまうと、魅力に乏しい、中途半端な施設となってしまいうように思います。例えば、現在の収蔵品を一時的に収蔵しておく場所を確保して、その間に理想的な施設を相応の時間をかけて計画していくという方法。例えば、在来の施設に収蔵品を分散し、各施設のサテライト機能を重視し、新博物館の施設建設については、リファレンスの拠点としての計画に限定する方法。また、それらの案をアイデアコンペ(公募)等で募る方法など…。せっかくの施設整備の機会ですので、最大限に可能性を模索し、現実的で理想的な計画が、確実に実現されることを願います。
27	「みえの博物館」には、ともすると見落とされがちな私たちの身の回りにある自然に関する研究を通して、一般の人々に向けて急速に失われていく市街地や農耕地(いわゆる里山)の生きものたちの存在を紹介し、これらの自然とともに生きていくライフスタイルを提案するようなコンセプトの展示を強く希望します。
28	自然科学系の博物館といっても学究色一辺倒では、表現が悪いですが「カビの生えた古い博物館」となってしまう。「みえの博物館」が里山の雑木林に囲まれたビオトープや水生生物など生きた生物たちとの出会いを体験できる魅力的な博物館、自然・文化・生活をうまくコンパインさせた博物館となることを心から希望しております。
29	財政的に厳しい中、公の運営は経営的に難しいので、民営化できる部分は民営化するなど、県民の負担が無駄にならないようにしてもらいたい。そして、十分な収集・研究がなされ、若い人たちが何度も足を運びたくなるような新博物館づくりを希望します。
30	新博物館の展示については、常設だけでなく、柔軟にいろんな分野の展示ができるスペースを設けてほしい。
31	10 / 21(日)の話題にもありました、いわば博物館の生命線である収蔵庫の充実をお願いしたいものです。
32	新博物館を建てるにあたっては、建物や学芸員の雇用、維持費に費用がかかるので、県民に理解してもらい「未来のために、ぜひとも今建てなければいけない」といった気運が盛り上がるよう、県立博物館や三重の文化の現状と未来像をもっと訴える宣伝が必要である。

	【立地場所に関して】
33	<p>新博物館の建設場所について、総合文化センター近くが上がっているようです。</p> <p>博物館の用地は、極力 広い郊外地域の方が良いと思います。現在、津駅周辺はマンション建設や高校生などの駅利用で、朝夕混雑します。</p> <p>一方、博物館は、車などで家族で休日に訪れることの方が多く、現在の広明町の博物館位置のように、駅近くに新博物館を作ると、駐車場用地確保などを含め、土地建物費用が大きくなり、結果的に有料駐車場になる可能性が高いです。三重の場合、駐車場が有料になると確実に人が寄りつかなくなります。</p> <p>従って、鈴鹿のベルシティーや玉城町のイオンなどの大規模ショッピングセンターの近隣などな博物館を建設すると、広大な土地が確保できるので、車で来やすくなります。結果的に入館者が増え、利用効率上がり黒字経営になります。車に乗らない人のためには、現在自治体がコミュニティーバスを計画しており、駅近くに博物館を建設する必要は全くありません。</p> <p>さらに、中勢バイパス建設など、現在新しい道路建設が推進されていますので、なるべく内陸位置で、2階建て以上の建物にしないように設計するべきです。高層ビルにすると、エレベータなど電気代を含めて博物館のランニングコストが一挙に増大します。平屋で平坦であれば、象など収蔵がやりやすい、地震の影響が減らせるなど、将来の維持がやりやすくなります。博物館の設計と建設には、イオンなどのショッピングセンタの設計技術を取り入れると良いです。</p>
34	<p>新博物館の建設場所について、北勢、南勢、伊賀地方から電車でアクセスし易く、土地も広い、中川駅近くというのはどうでしょうか。津市民のための「県立」というイメージをかえてほしい。</p>
	【新博物館のネットワーク機能に関して】
35	<p>三重の文化の特徴として、他地域との文化の交流があると思いますが、新博物館は県内の市町の博物館とのネットワークだけでなく、著名な文化人が全国に残した足跡をつなく国立、他県立の博物館とのネットワークも充実していただきたい。</p>
36	<p>市町の博物館を充実させるのが、文化力の向上につながると考えます。四日市市には立派な博物館があり、桑名市、松阪市、伊勢市、尾鷲市、輝北町(旧海山町)にも歴史資料館、郷土資料館があり、財政力があるならば、全市町に博物館や歴史資料館、郷土資料館ができることが望ましいと思う。県立博物館の機能としてはこれら市町の博物館党を結びつけるネットワーク機能をもった博物館であるべきだと考えます。</p>
37	<p>今日のお話を聞くと、予算の都合もあり、また場の都合もあり、大規模な博物館は難しいとの事でしたが、それをカバーするために郷土資料館や地方の各史料館とのネットワークで、内容を濃くするとおっしゃっていましたが、それでは、県立博物館は、その各史料館の紹介の場という事になってしまうのではないのでしょうか。ネットワークするということは、やっぱり各史料館の内容を少しずつ集めたものというわけではないと思います。その辺りのネットワークとは、具体的にはどうするつもりですか。</p>
	【学芸員に関して】
38	<p>学芸員には見学者とのコミュニケーションは取る必要はないと思う。ボランティア等に任せ、答えられないことだけ対応し、他は研究・調査・資料整備を行わないと時間がないのではないのでしょうか。</p>
39	<p>三重の自然の偉大さ貴重さを県民に理解され全国にアピールするための優秀な人材の確保を要望します。</p>
40	<p>資料3 博物館のあり方に関する基本的な考え方(P.11)の(2)学芸員等の充実については、現在の県立博物館は紀要・調査報告書がほとんど出されておらず、学芸員の研究能力が先進地の博物館に比べて、失礼ながらかなり劣ると云わざるを得ない。しかしながら、優れた資質を持った方ばかりであるので、潜在能力を高めるため、研修等の機会を作ってあげてほしい。例えば、半年から1年間、先進地の博物館(大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、千葉県立中央博物館など)に出向させて、人材育成をしてはどうでしょうか。あるいは当初から研究職を採用するべきでしょう。「サポートスタッフ」は良い制度ですが、学芸員の力量と指導力が問われます。</p>
41	<p>学芸員の育成が大切、これも他県では素晴らしい対応(昨日訪問した和歌山県など)である。</p>
	【公文書館に関して】
42	<p>資料3 博物館のあり方に関する基本的な考え方(P.11)の(1)新博物館の検討体制の準備について、博物館と公文書館は、法令根拠(博物館法と公文書館法)が異なるので、「博物館のあり方…」で検討するのは無理があるのではないのでしょうか。別々に検討すべき問題だと思います。</p>
	【現博物館に関して】
43	<p>ホームページの百科事典化を希望します。現博物館が閉館状態であることから、ホームページを活用し、ある程度の展示物の閲覧ができるようにしていただくとよいかと思ひます。そこから、実際に博物館を訪れてみようとか要求につながることもあるし、三重県の百科事典として充実したホームページになるとよいかと思ひます。</p>

	【感想等】
44	基調講演の内容はよかった。意見交換の時間がもう少しとれれば良い。
45	意見交換会なのに意見が言える時間が短い。発言出来ない方が多いのに大変遺憾である。
46	生まれも育ちも鈴鹿市なのですが、県立博物館を閉鎖前に初めて訪れました。博物館とは資料の展示・保存が主な役割だと思っていたのですが、今日の話をお聞きして、調査・研究や人材養成・地域振興(経済・観光の活性化など)にも幅広い意味があるのだと感じました。
	【その他】
47	文化と語り手、落語とかのコラボレーションはできないか。コラボを推進するわけでないが、興味を引く方法の一つと考える。例えば、文化会館で落語をすれば、子どもとか高齢者も、文化というものを身近に感じるのではないか。
48	「三重の文化振興方針」(仮称)におけるコンテンツ産業振興推進について 他県では、自治体レベルでコンテンツ産業専門調査会を立ち上げているが、三重県では、著作物コンテンツ産業専門調査会がまだない。この調査会、推進会議を、現在の非営利、教育関連の文化振興とは全く別に開始することを要望します。